

2013年10月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

➤景気判断を引き上げました

——道北地域は面積が広大なだけに、地域によって景況感に温度差があるうえ、業種によるばらつきもみられますが、全体を括ってみれば、緩やかながら「持ち直し」といえる状況になってきました。

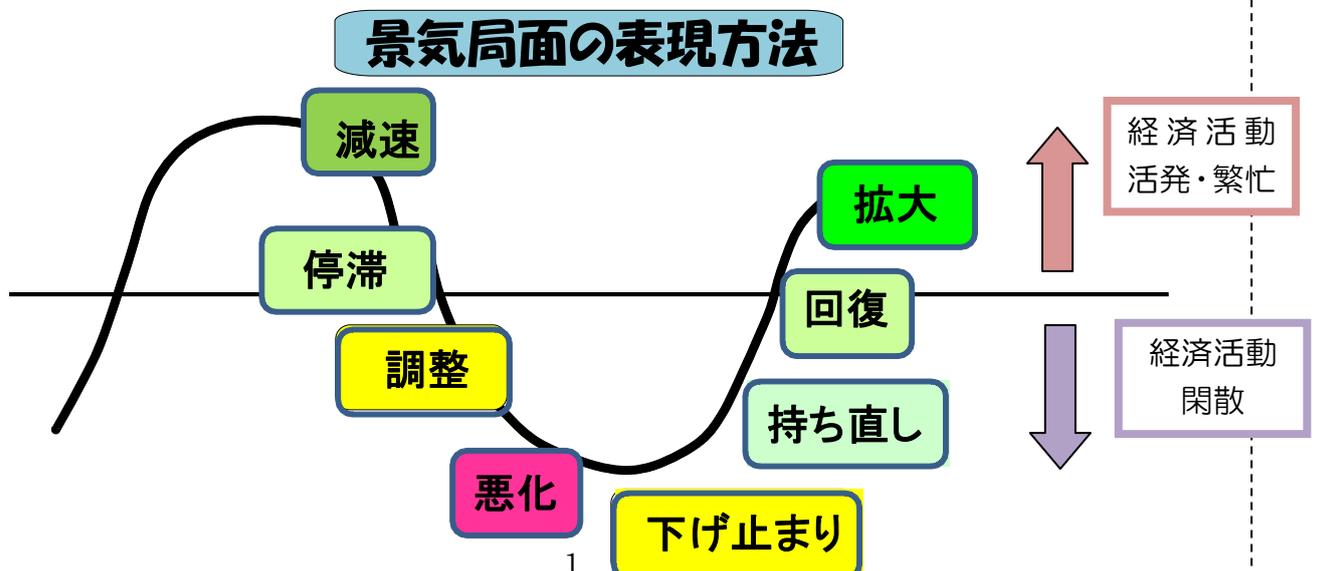
2013/5月	一部に持ち直しの動きがみられている	※2 か月振りの上方修正
/7月	緩やかに持ち直しの動きが広がりつつある	※2 か月振りの上方修正
/9月	緩やかに持ち直しの動きが広がっている	※2 か月振りの上方修正
/10月	緩やかに持ち直している	※2 か月連続の上方修正

参考

景気局面の表現に関しては、やや独特の言い回しをしますので、簡単に整理しておきたいと思います。

【景気局面の表現方法】

経済活動の繁忙・閑散に依じて、大まかに言えば、下図のような言い回しが一般に使われます。図では、縦方向に上に行くほど、経済活動が活発となり、需給ギャップが縮小していく状況と考えて下さい（上に行くほど、雇用人員や設備の逼迫感が強まると言えます）。



■支出・生産・所得の変化点

➤個人消費の判断を上方修正しました（その他項目は据え置きました）

項目	今回	従来
個人消費	持ち直している ※2か月連続の上方修正	持ち直しの動きが広がりつつある

■基調判断を引き上げた理由

➤企業活動の緩やかな改善基調が続いていますが、ここに来て、個人消費面でも堅調さが加わりはじめました。

■経済概況の説明

➤道北地域の経済活動（仕事量）をみると、地域・業種によって、ばらつきがみられ、一部の業種や企業では、仕事が閑散状態で「下げ止まり」ないしは「持ち直し」の一步手前の領域で足踏み状態にある先も少なくありません。しかし、仕事量が増加している業種や企業が徐々に増えており、全体を括ってみれば、回復方向に向けて、少しずつ歩みを進めています。

——具体的な動きを業態別にみますと、建設業、製材業、紙・パルプ業については既にフル生産状態で、前頁の図でいえば、既に「拡大」の領域に入っています。また、医療福祉関連業では、高齢者が徐々に増加する中で、デイサービス等の需要が拡大していることもあって、繁忙感が高まっています。観光・宿泊業は、稼働率が90%台に乗るなど、間違いなく「回復」の領域に入ってきています。こうした動きを背景に、運輸、卸・小売、飲食サービスも、総じて「持ち直し」の動きとなっています。

——法人企業のマインド面をみても、改善しています。9月短観では、道北地域の企業の景況感が大幅に改善（全産業の業況判断DIは+18）、水準的には統計データが残る過去17年間の中で最高レベルとなりました。

※統計は96年5月まで遡及可能。既往最高値は96年5月の+15。

➤所得状況をみると、緩やかな改善方向にあります。ただ、内容的には、企業部門の所得回復が先行し、家計部門の所得に明確に波及するのに時間がかかっており、全体として括ってみれば、現段階は「回復」とまでは言えず、「持ち直し」というレベルに止まります。

——まず、企業部門の所得である「収益」をみますと、9月短観では2013年度経常利益が前年度比+84.1%増の大幅増加の計画となっています。短観調査先以外の企業も含めた道北地区の企業の収益も、温度差はかなりあるとみられますが、改善方向にあるとみられます。

——家計部門の所得（雇用者所得）は、賃金と雇用者数の掛け算で決まります。まず、賃金については、経済活動（仕事量）が活発化している業種を中心に「所定外労働時間の増加」「賞与の増加」等の話が聞かれます。また、雇用者数については、統計上の制約から明確には分かりませんが、ハローワークが公表している雇用保険の被保険者数をみると、雇用者の数が全体としては緩やかに増えています*。このように、賃金と雇用者数のいずれもが雇用者所得をプラス方向に引っ張る材料と考えられますので、雇用者所得としては緩やかですが改善方向に向かっているとみてよいと思われれます。

※雇用保険被保険者数（4ハローワークの合計ベース）は、前年比+0.9%（うち旭川：+1.5%、北見：+0.2%、稚内：▲1.0%、網走：+0.2%）。

➤最終需要をみますと、これまで公共投資と設備投資の増加は確認できていましたが、ここにきて最大の需要項目である個人消費の堅調さが加わってきました。デパートでの高額商品購入や自動車購入は引続きしっかりしています。更に、場所によって濃淡はありますが、スーパーの売上高についても「堅調」「微増ながら順調」という声が徐々に増えてきています。

——背景としては、株式相場の回復による資産効果や公共投資による仕事量の増加、家計マインドの改善等が聞かれていましたが、ここにきて「米作が良好」等、農業所得の改善を指摘する声も加わってきました。

・以上のような判断から、今月は景気の基調判断を「緩やかに持ち直している」に引き上げました。

■今後のリスク要因

- ・道北地域は、冬が寒く暖房費の負担が相対的に大きいほか、移動手段として自動車に依存しています。このため道北地域ならではのリスク要因として、「原油高や円安を背景とした物価上昇を通じて、景気の回復に向けた動きを弱めないか」という点についても、引き続き見ていく必要があると思われます。
- ・道北地域における農業の作柄状況をみますと、米作について一部の地域では必ずしも良好でない地域があるほか、天候不順による玉ねぎ、ジャガイモの収量悪化が起きています。このため、こうした作柄不良による消費の鈍化を懸念する声も一部に聞かれますので、この点も注意深くみていく必要があります。

以 上